

令和7年度 第2学期終業式 式辞

本日、約4か月あった2学期の終業式となりました。

2学期には、運動会や文化祭という大きな行事がありました。私は、色々な場面で、まさに「青春を謳歌する」皆さんの姿に、感動しました。3年生の中には、進路が決まった人もあります。もちろん、これから本番を迎える人も数多くいます。体調には十分気を付けて本番に臨めるようにしてください。

さて、2学期の皆さんの活動を振り返ってみると、県新人大会では、登山の男女優勝、ハンドボール女子2位、バドミントン男子団体3位、県高校選抜大会で弓道部が男子団体優勝、女子団体2位、男子個人2位、3位など、多くの部が県上位に進出しました。弓道男子団体は四国大会でも優勝を遂げました。

さらに、県高校総合文化祭では、器楽・管弦楽、文芸、自然科学の各分野で優秀を受賞、将棋の男子個人でも2位などの活躍が見られました。

また、東京理工大学主催の坊っちゃん科学賞で見事全国最優秀を受賞した南高生もいます。

本当に多くの皆さん、様々な場面で活躍してくれました。もちろん、これら以外にも皆さん一人ひとりには、2学期の間に、それぞれの努力や挑戦があったことと思います。いつも言っていることですが、「結果」だけではありません。「過程」からこそ、得るものは大きいと思います。頑張りが思うような結果につながらず、くじけそうになっている人もいるかもしれません。しかし、努力の結果がいつ実を結ぶかは、分かりません。とりあえず、今日やるべきことを、着実にやりましょう。明日も、明後日も、「焦らず、弛まず、怠らず」です。

今日、皆さんとともに無事2学期を終えられることを、生徒の皆さん、保護者や地域の方々、そして教職員の皆さんに心から感謝します。本当にありがとうございます。全ての皆さんの2学期の頑張りを讃えます。

さて、私は先月の14日、会議のため東京に出張しました。会場は国立オリンピック記念青少年総合センターでした。センターの敷地に入ると、テントやのぼりが数多く建てられており、スポーツウェアを着た外国の方も多く、手話で会話する姿がありました。その時ようやく、頭の中で、翌15日からデフリンピック東京大会が開かれるという情報と結びつきました。大会前日の、アスリートやスタッフの高揚感あふれる雰囲気を感じることができました。今大会では、いずれも松山市出身の、栗林選手が女子バレーボールで、橋本選手

が女子バスケットボールで金メダルを獲得したことを知っている人も多いでしょう。

東京での会議を終えた日、松山に帰ると、ちょうどデフバレーボール日本代表の狩野拓也選手について取り上げた番組の放送がありました。番組では、狩野選手が仲間に、チームのムードを作るためには、たとえ聴こえなくても、プレー中、互いに声を出すことが大切だと説く様子、そして、仲間が声を出している姿や表情、そこから得られる信頼こそが力になるという狩野選手の思いが取り上げられていました。私は強く心が動かされました。

狩野選手は、愛媛県内で耳鼻咽喉科の医師として勤務しながらデフリンピック日本代表として活躍する33歳。生まれつき両耳に重い難聴があり、幼い頃から聞こえに関しては周囲に助けられ、一方で得意なことでは人を助けるなど、ずっと周囲と支えあってきました。

狩野さんは、「医師としての専門的な知識に加えて、当事者の立場から、補聴器の選び方や人工内耳のメリット・デメリットなどを伝えられます。説得力に厚みをもたせられるのは一つの強みかなと思います」とおっしゃいます。

皆さん一人ひとりにも、自分だけの強みがあります。時にそれは「人と違う部分」から生まれるかもしれません。大切なのは、その違いを否定するのではなく、互いに尊重し合い、支えあうことだと改めて感じました。

皆さんの2学期は、どうだったでしょうか。「まだまだだった。」と思う人は、今日からリスタートです。新年からではありません。今日からです。

何回も言います。

少々遅れても問題はない。スタートするだけだ。必ず走れる。絶対に走りきれる。

未来を、そして過去の出来事の意味を変えるには今日を変えるしかありません。それでは、3学期の始業式に、元気な皆さんに再会できることを楽しみにしています。